

寄贈図書リスト

- ① プラネタリウム百年史, マシュー・マクマホン, ベドロ・M・P・ラポーゾ, マイク・スメイル, キャサリン・ボイス=ジャシーノ 編, 水嶋英治, 木村かおる 訳, A5判, 224ページ, 3,600

円+税, 丸善出版

- ② 見えないブラックホールを見る, 本間希樹, 四六判, 256ページ, 1,800円+税, 日本評論社
③ コペルニクス説遺聞 原典でたどる科学革命初期の諸相, 高橋憲一 編訳, A5判, 480ページ, 8,200円+税, みすず書房

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日に締切り, 翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします。ご投稿いただいた記事は, 翌月初旬に一度校正をお願いいたします。

記事の投稿は, e-mailで toukou@geppou.asj.or.jp 宛にお送りください。折り返し, 受領の連絡をいたします。

人事公募

群馬県職員（観測普及研究員）

キーテクノロジーぐんま天文台では, 天文学の教育普及に重点を置き, 子どもたちや県民に知的好奇心を刺激する本物の体験を提供する「開かれた天文台」を目指して運営を行っております。この度, 下記のとおり観測普及研究員を募集することとなりました。つきましては, 天文学の教育普及に情熱を持って取り組まれる, 意欲ある方々の応募を心よりお待ちしております。

1. 職種及び採用予定人員: 観測普及研究員 1名
2. 主な職務内容: 教育普及活動(解説, 企画運営, 情報発信等), 望遠鏡等の維持管理・操作, 観測研究
3. 主な受験資格:
 - (1) 年齢: 昭和40年4月2日以降に生まれた人(令和9年4月1日時点で61歳以下)
 - (2) 学歴: 大学又は大学院において天文学又は関連分野を専攻し, 卒業・修了(見込みを含む)した人
 - (3) 経験: 天文学に関する研究実績又は実務経験(施設での教育普及や望遠鏡の管理・操作経験等)のある人
4. 選考スケジュール:
 - (1) 申込期間: 令和8年7月6日(月)～令和8年8月31日(月)
 - (2) 第1次選考(書類審査・小論文): 令和8年9月実施
 - (3) 第2次選考(面接・適性検査): 令和8年10月27日(火)
5. 受験案内の入手方法・詳細: 試験の詳細, 提出書

類及び申込方法については, 以下の群馬県ホームページを御参照ください。

URL: <https://www.pref.gunma.jp/page/764159.html>

【本件に関する問い合わせ先】

群馬県教育委員会事務局生涯学習課

電話: 027-226-4661(直通)

E-mail: kigakusyu@pref.gunma.lg.jp

核融合科学研究所研究教育職員

1. 募集人員:
 - (1) 核融合科学を学際的に発展させる教授, 准教授又は助教 若干名
 - (2) 核融合科学を学際的に発展させる教授, 准教授又は助教(女性限定) 1名程度
 - (3) 装置工学・教授 1名
 - (4) プラズマ加熱理工学・教授 1名
 - (5) プラズマ量子プロセスユニット准教授又は助教 1名
 - (6) 超高流束協奏材料ユニット准教授又は助教 1名
2. (1) 所属分野: 詳細は「10.その他」記載のURLにおいて確認すること。
(2) 勤務地: 岐阜県土岐市下石町322-6
3. 専門分野/4. 職務内容・担当科目: 詳細は「10.その他」記載のURLにおいて確認すること。
5. (1) 着任時期: 詳細は「10.その他」記載のURLにおいて確認すること。
(2) 任期: 任期無し
6. 応募資格: 詳細は「10.その他」記載のURLにおいて確認すること。
7. 提出書類: 詳細は「10.その他」記載のURLにお

いて確認すること。

(1) 履歴書, (2) これまでの研究内容, (3) 就任後の抱負, (4) 研究業績リスト, (5) 論文別刷, (6) 添付する論文の概要と本人の貢献を記載した文書, (7) 推薦書

8. 応募締切: 2026年9月30日(水) 17時

9. (1) 提出先: 詳細は「10. その他」記載のURLにおいて確認すること。

(2) 問合せ先:

・提出書類について

核融合科学研究所管理部総務企画課人事係

E-mail nifs-jinji@nifs.ac.jp

・研究内容等について

核融合科学研究所研究部長 坂本隆一

E-mail sakamoto@nifs.ac.jp

10. その他 (待遇など):

詳細は以下を参照ください。

<https://www.nifs.ac.jp/about/recruit/>

研究会・集会案内

「東京大学木曽観測所及び名古屋大学宇宙地球環境研究所」

特別公開 2026 のお知らせ

東京大学木曽観測所及び名古屋大学宇宙地球環境研究所では、9月19日(土)、20日(日)に施設の特別公開を行います。望遠鏡や観測装置を間近に見ることができるほか、1日目の夜には天体観望会も行います。両日とも講演会を予定しています。是非ご来場ください。なお講演会はYouTubeでの中継も行いますので、会場へ来られない方も是非お楽しみください。

◆開催日時とプログラム:

○2026年9月19日(土) 13:00~20:30

* 13:00~17:30 望遠鏡デモンストレーション, 研究紹介, 施設紹介 など

* 14:30~15:30 講演会 講師: 高田 裕行 (国立天文台天文情報センター 専門研究職員)

タイトル: 「星空の心理学」

* 18:30~20:30 天体観望会 (雨天中止)

○2026年9月20日(日) 10:00~16:00

* 10:00~16:00 望遠鏡デモンストレーション, 研究紹介, 施設紹介 など

* 13:30~14:30 講演会 講師: 有馬 宣明 (日本大学理工学部航空宇宙工学科 助手)

タイトル: 「月にぶつかると一瞬の光『月面衝突閃

光』が教えてくれること」

◆開催場所: 東京大学木曽観測所および名古屋大学宇宙地球環境研究所木曽観測施設

(長野県木曽郡木曽町三岳 10762-30)

◆交通手段: JR中央西線木曽福島駅または上松駅から車で約30分

◆共催:

東京大学大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター木曽観測所, 名古屋大学宇宙地球環境研究所, 木曽広域連合, 木曽文化公園

◆問い合わせ先:

木曽観測所 TEL: 0264-52-3360

木曽観測所ホームページ: <https://www.ioa.s.u-tokyo.ac.jp/kisohp/>

名古屋大学宇宙地球環境研究所 ホームページ: <https://stsw1.isee.nagoya-u.ac.jp/>

※施設公開・講演会ともに事前申し込みは不要で、入場無料です。

※講演会はYouTubeでもライブ配信します。

賞の推薦

2026 年度宇宙科学奨励賞公募のご案内

公益財団法人宇宙科学振興会では、宇宙科学分野で優れた研究業績を挙げ、将来の宇宙科学の発展に大きな役割を果たすことが期待される若い研究者を顕彰し、宇宙科学奨励賞を授与いたします。ここに2026年度の第19回宇宙科学奨励賞候補者のご推薦を募集いたします。推薦要綱の詳細は当財団のホームページ (<https://www.spss.or.jp>) に掲示しておりますが、当奨励賞の概要は以下の通りです。皆様の周りで優れた業績を挙げ将来の活躍が期待される若手研究者をご存知の際には、是非ともご推薦いただきますようお願い申し上げます。表彰の趣旨: 宇宙理学 (飛翔体を用いた観測, 探査, 実験に関連する理学研究) 分野及び宇宙工学分野で独創的な研究を行い、宇宙科学の進展に寄与する優れた研究業績をあげた若手研究者個人を顕彰する。この賞が対象とする分野には、地球観測や宇宙環境を利用した理学研究・工学研究も含まれる。

授与機関: 公益財団法人 宇宙科学振興会

候補者: 上記分野で優れた業績をあげた当該年度の4月1日現在37歳以下の若手研究者個人。候補者の推薦は他薦に限る。

業績の審査: 業績の審査は、推薦理由となる研究業績に関連して発表された論文に基づいて、当財団が設

置する選考委員会において行う。

賞の内容：授賞は原則として毎年宇宙理学関係1名、宇宙工学関係1名とする（ただし適格者のいない場合は受賞者なしとする場合がある）。受賞者には本賞（賞状と表彰楯）および副賞（賞金30万円）が贈られる。

推薦締切日：2026年10月31日（土）必着。

表彰式：選考結果は2027年1月に推薦者と受賞者に通知するとともに、当財団ホームページにおいて発表する。その後2027年3月初旬に表彰式を行い、受賞者には受賞対象となった研究に関する講演をしていただく。

なお、推薦の手続きの詳細については財団のホームページ（<https://www.spss.or.jp>）をご覧ください。推薦書式をダウンロードして必要事項を記載の上、(1) 候補者の略歴、(2) 業績全般を示す論文のリスト、および(3) 推薦の対象となる論文の別刷等必要書類を添付の上、電子メールにてご提出ください。

お問い合わせ先および推薦書送付先：

〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台3-1-1

公益財団法人宇宙科学振興会 事務局

E-mail: admin@spss.or.jp

Tel: 042-751-1126（火、木）

公益財団法人天文学振興財団 令和8年度天文学業績表彰応募

当財団は、社会における天文学の振興に寄与するため、天文学に関連する分野での顕著な業績に対して表彰をいたします。

公益財団法人天文学振興財団 理事長 観山正見

1. 応募種目

[1] 古在由秀賞

(1) 選考基準（以下のいずれかに該当する者）

- ① 広い意味で理論天文研究において顕著な業績をあげた研究者
- ② 天文学の広報普及に貢献した者（アマチュアも含む）
- ③ 広い意味で重力波天文学の貢献に顕著な業績をあげた研究者
- ④ 国際的に天文学の推進（特にアジアの天文学）に貢献した者
- ⑤ 天文学の推進に関して管理運営等において優れた業績をあげた者

(2) 対象

- ・当該年度当初において45歳以下であること（個人または研究グループの代表者）。また、

応募は推薦に依るものといたしますが、他薦・自薦の別は問いません。

[2] 吉田庄一郎記念・ニコン天文学業績賞

(1) 選考基準（以下のいずれかに該当する者）。

- ・新たな天体観測手法の研究・開発で顕著な業績をあげた者
- ・天体観測技術の研究または開発分野で顕著な業績を挙げた者
- ・新たな天体観測手法・装置の研究・開発を通じて産業界の発展に顕著な寄与をなした者

(2) 対象

- ・当該年度当初において50歳以下であること（個人またはグループの代表者）。また、応募は推薦に依るものといたしますが、他薦・自薦の別は問いません。

2. 応募期限：両賞とも令和8年10月末日

3. 選考結果：両賞とも選考委員会で審査の上、結果について令和9年1月下旬に文書で通知します。

4. 申請方法：天文学振興財団ホームページ上にWordファイルとPDFファイルを掲載します。応募書類は、一つのPDFファイルにまとめて電子メールに添付し、応募期限までに以下のメールアドレス宛にお送りください。

shinsei@fpastron.jp

天文学振興財団より受理確認メールを返信いたします。

5. 問合せ先：公益財団法人天文学振興財団 事務局

〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1

国立天文台内

Tel: 0422-34-8801

Fax: 0422-34-4053

<http://www.fpastron.jp/>

2026年度日本天文学会林忠四郎賞受賞候補者 および欧文研究報告論文賞受賞候補論文推薦 のお願い

林忠四郎賞選考委員会

標記の二つの賞について、受賞候補者と受賞論文の推薦をお願いします。締切は両賞とも2026年11月3日（火）（必着）です。以下に述べるそれぞれの要領に従って記入した推薦書のPDFを[apply \(at\) asj.or.jp](mailto:apply(at)asj.or.jp)宛にe-mailで送付してください。なお、件名「林忠四郎賞候補者推薦書」または「欧文研究報告論文賞候補推薦書」と表記してください。林忠四郎賞の推薦は2年間有効です。欧文研究報告論文賞の推薦は毎年リ

セットされます。なお、欧文研究報告論文賞は「原則として1年に2件以内」と内規に定めているため、優れた論文であっても受賞に至らない場合があります。その場合、優れた論文は複数回推薦していただくことを奨励します。授賞式は両賞とも本会春季年会時の会員全体集会にて行う予定です。

2026 年度（第 31 回）林忠四郎賞推薦要領

この賞は、林忠四郎博士が1995年11月に第11回京都賞を授与されたのを記念し、「後進の天文学研究を奨励するため」として同博士より日本天文学会にいただいた寄付を基金にして設定されたものです。なお、本賞は、他薦のみとなっています。

対 象：広い意味での天文学（天体物理学、宇宙物理学、他の関連テーマも含む）における独創的でかつ分野に寄与するところの大きい研究業績に対して授与する。

受賞資格：本年度当初においてすでに本会正会員である者（個人または少人数の研究グループ）。

授賞件数：原則として1件。

賞状等：本賞として賞状、副賞として賞牌（メダル）および賞金（30万円）を授与する。

推薦書の形式：表題は「2026年度林忠四郎賞候補者推薦書」としてください。A4サイズ用の用紙に、次の順序で横書きにしてください。

- 1) 候補者（被推薦者、連名授賞可）について：氏名（ふりがな）、生年月日、大学卒業年、現職および連絡先（電話、e-mail）
- 2) 授賞対象とする研究の表題（英語表記も併記）
- 3) 推薦者について（正会員）：氏名（ふりがな）、現職、連絡先（電話、e-mail）、被推薦者との関係
- 4) 推薦理由の要旨（300字以内）
- 5) 推薦理由
- 6) 関連する論文のリスト
- 7) 添付資料として、推薦に関連して最も重要な論文のPDF（3編以内）

推薦書を含めた合計ファイルサイズが20MBを超える場合、メールを複数回に分けてお送りいただくか、論文PDFをオンラインストレージ等に保存のうえ、推薦書を添付したメール本文にてそのURLなどをお知らせください。

2026 年度（第 31 回）欧文研究報告論文賞推薦要領

この賞は、日本天文学会欧文研究報告（Publications of the Astronomical Society of Japan (PASJ)）に出版された優れた論文を称賛し、今後も優れた論文が投稿・出版されることを奨励するために設定したものです。なお本賞の選考委員会は、林忠四郎賞選考委員会が兼ねています。なお、本賞は論文を対象とした賞です。推薦は他薦に限らず論文の著者（共著者を含む）からの自薦も可能です。

対象論文：原則として2020年12月から本賞締め切りまでに発行されたPASJに掲載された論文の中で、独創的で天文学分野に寄与の大きい、特に優れた論文をその対象とする。

授賞件数等：原則として2件以内。受賞論文の著者（共著の場合は、すべての共著者）に賞状を授与するとともに、受賞記念講演日より3年以内に投稿された論文一編について、その本文掲載料を無料にするともに、オープンアクセスにて公開する。

推薦書の形式：表題は「2026年度欧文研究報告論文賞候補推薦書」としてください。A4サイズのPDFで、次の順序で横書きにしてください。

- 1) 候補論文について：論文題目、筆頭著者名、出版された巻、ページ、発行年
- 2) 推薦理由（1,000字程度）
- 3) 推薦者について（正会員）：氏名（ふりがな）、現職、連絡先（電話、e-mail）

2026 年度（第 38 回）研究奨励賞候補者推薦のお願い

研究奨励賞選考委員会

本会は、優れた研究成果を上げている若手天文学者に対して、日本天文学会研究奨励賞を授与しています。受賞資格は

- 1) 日本天文学会正会員で、最近おおそ5年間（※以下参照）における天文学への寄与が顕著なる者
- 2) 当該年度初日（2026年4月1日）にすでに正会員であつてかつ博士学位取得後8年以内の者。ただし、産休・育休等やむを得ない事情により天文分野での活動に空白期間があれば、その年月は考慮する。です。毎年3名以内を対象とし、賞状、賞牌（メダ

ル)および賞金(10万円)を併せて授与しています。皆様からの多数の候補者の推薦(自薦も可)をお待ちしております。近年は女性候補者の推薦が少なくなっております。女性候補者の積極的な推薦をお願いします。選考委員会では推薦された方の中から、研究奨励賞内規に基づき選考を行い、候補者を代議員総会に推薦します。推薦にあたっては、被推薦者が当該年度の学会年会費を納入済みであることを確認してください。受賞候補者の推薦要領は以下の通りです。

- (1) 締切: 2026年11月5日(木) 必着
- (2) 提出書類: ○候補者氏名、会員番号、現職、博士学位の情報(論文題目、取得年月日、授与期間、指導教員名)、職歴(産休・育休等やむを得ない事情により天文分野での活動に空白があることを考慮する場合にはその期間を記載してください)、○授賞対象とする研究の表題(日本語および英語)、○推薦者の氏名、現職、連絡先(自薦の場合には候補者について聞くことのできる方を記載してください)、○推薦理由(300文字程度の要旨とA4で2〜3枚程度の本文、※最近5年間の業績を基本とし、それを遡る2〜3年間にも主業績に至る一連の萌芽的研究があれば積極的に記載してください)、○関連論文リスト、○推薦に関連して最も重要な論文のコピー(3編以内)
- (3) 提出先: 下記webサイトへのPDFファイルアップロード
webサイト(<https://www.asj.or.jp/jp/activities/prize/shorei/>)を通じてPDFファイルをアップロードしていただきます。提出書類を一つのPDFにまとめ、ファイル名を「2026kenkyushorei_full_name」として頂き、webサイトから必要事項をご記入の上でアップロードしてください。“full_name”は候補者の氏名です。

2026年度(第26回)天文功労賞 候補者推薦のお願い

天体発見賞選考委員会

この賞は、研究機関外での天文活動、例えば長年に亘る天体観測や、突発的な現象の検出・通報などを称賛し、奨励するためのものです。賞の対象となる功績は、天体発見賞・天体発見功労賞の枠に収まらない天文観測・研究活動です。対象者は、日本在住者、日本国籍を有する個人、または日本に本拠地を置く団体であって、天文学研究を主たる業務としない者(団体)とします。日本天文学会の会員であるかどうかは問い

ません。選考は、天体発見賞選考委員会が行い、候補者(団体)を代議員総会に推薦します。

この天文功労賞につきまして、日本天文学会の会員の方々からの候補者(団体)の推薦を広く募集します。A4紙1枚程度で、候補者(団体)名、功績題目(1行程度)、功績の説明を書いていただき、日本天文学会事務所(〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内、Fax: 0422-31-5487, e-mail: [apply\(at\)asj.or.jp](mailto:apply(at)asj.or.jp))までお送りください。郵便・Fax・電子メールのいずれでも結構です。推薦は随時受け付けておりますが、今回の選考に確実に乗せるには、2026年11月13日(金)までにお送りください。なにとぞ多数のご推薦をよろしくお願いいたします。なお、推薦された候補について、2026年度に受賞対象とならなかった場合でも、当選考委員会において候補リストに登録し、翌年度以降の選考対象とします。このため、同一の推薦を翌年度以降に重ねて行う必要はありません。ただし、推薦内容に変更がある場合は、再度の提出をお願い致します。

2026年度(第9回)天文教育普及賞候補者推薦のお願い

天文教育普及賞選考委員会

日本天文学会天文教育普及賞は、天文教育や普及活動の分野で特に顕著な貢献をされた個人や団体を顕彰し奨励して、教育普及活動のさらなる発展を期するものです。対象者は、日本国内・国外またはその両方で活動を行った日本在住者や日本国籍を有する個人、または日本に本拠地を置く団体、及び日本国内で行われた教育普及活動を実施した外国の個人または団体です。教育普及活動が本務の場合も、本来の業務を大きく超え、社会に強い影響を与え、多大な貢献をした場合は対象となります。また、日本天文学会の会員であるかどうかは問いません。選考は天文教育普及賞選考委員会が行い、候補者を代議員総会に推薦します。

つきましては、日本天文学会正会員・準会員の方々から、候補者(団体)の推薦を広く募集します。A4紙1枚程度で、候補者(団体)名、活動名(1行程度)、活動内容の説明を記載し、必要に応じて補足資料(A4紙5枚程度まで)を添付のうえ、日本天文学会事務所(〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内、Fax: 0422-31-5487, [apply\(at\)asj.or.jp](mailto:apply(at)asj.or.jp))にお送りください。フォーマットの指定は特にありません。郵便・Fax・電子メールのいずれでも結構です。

なお、連名で推薦される場合は全員が会員である必要はありません。推薦は随時受け付けておりますが、

第9回の選考に確実に間に合わせるには、2026年9月30日(水)までにお送りいただくようお願いいたします。なお昨年度推薦いただいた候補者に関しては再推薦の必要はありません。なにとぞ多数のご推薦をよろしくお願いいたします。

会 務 案 内

公益社団法人日本天文学会 2025 年度（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）事業および決算の報告

事業・決算報告書の電子版を日本天文学会ホームページ上（<http://www.asj.or.jp>）で公開しておりますが、書面による配布を希望される方には別途郵送いたしますので、学会事務所までご連絡ください。

1. 2025 年度事業の報告

2025 年 9 月の秋季年会（海峡メッセ下関）、2026 年 3 月の春季年会（京都産業大学）ともに、現地での講演を基本としてオンラインでも聴講できるハイブリッドで開催しました。助成金では、早川基金として海外研究活動のための渡航補助を 25 名（うち 2 名辞退）に総額約 520 万円、学術交流費として年会学生発表者に総額約 54 万円を支給しました。寄附金による新規支援事業として、若手研究者の国際交流をより活発化することを目指した国際研究会の助成を行う「若手国際交流研究会基金」の創設のため、2026 年度の事業開始に向けた準備タスクフォースにて事業体制等を検討整備し、2025 年 12 月理事会での承認を受け若手国際交流研究会選考委員会を設置しました。それ以外の活動内容はおおむね例年通りでした。欧文研究報告、天文月報、年会予稿集、ジュニアセッション予稿集、シリーズ現代の天文学の刊行、各種委員会活動、各賞の授与、後援事業を行いました。詳しい事業報告は学会ホームページを参照してください。2026 年 3 月 31 日現在の会員数は以下の通りです。

	正会員 (内学生)	準会員	団体 会員	賛助 会員	合計
2025 年 3 月 31 日	2,401 (673)	931	35	46	3,413
入会	307 (286)	47	0	0	354
退会・除籍等 [うち除籍] ^{注1}	△ 218 (134) [△ 35 (0)]	△ 75 [△ 21]	△ 1 [0]	△ 3 [0]	△ 297 [△ 56]
移籍 (増) ^{注2}	11 (4)	12	—	—	23
移籍 (減) ^{注2}	△ 12 (3)	△ 11	—	—	△ 23
正会員へ (学生減) ^{注3}	△ (91)	—	—	—	—
2026 年 3 月 31 日	2,489 (735)	904	34	43	3,470

(注 1：除籍とは会費未納による資格喪失を指す)

(注 2：移籍とは正会員、準会員との間の移動のことを指す)

(注 3：学割扱いの正会員から通常の正会員への移動を指す)

2. 2025 年度決算の報告

2025 年度の経常収益は前年度より 33,179,575 円増、経常費用は同 26,896,494 円増、学会の正味財産は 2,026,551 円増加し 146,938,142 円となりました。受取会費は前年度より 490,000 円増加し 42,746,000 円でした。

欧文研究報告 (PASJ) 事業では、多くの会員の方に掲載料半額キャンペーンをご利用いただき、出版頁数は増加しました。オープンアクセス利用者の増加に加え、本年度は過去の PASJ 論文の AI 学習への二次利用料収益があり、収益が経費を上回りました。年会事業では、例年よりも多くの会員の方にご参加頂いた一方で、会場費の高騰により経費が収益を上回りました。賛助会費と寄付で運営されている助成事業では、学術交流費基金、研究奨励賞基金に寄付をいただきました。支援に感謝いたします。

2025 年度の公益目的事業会計は 4,086,002 円の黒字となりました。黒字の要因としては、上記オープンアクセス利用者の増加、AI 学習への二次利用料収益が大きく、またその他にも年会会場費の変動、物価高、PASJ 事業への為替の影響等、様々な要因が積み重なった結果と分析しています。会員全体集会等でお知らせしている通り、2026 年度以降、年会運用システムの導入、安定的なハイブリッド開催を目指した年会固定開催地の試用開始、基金の枯渇が懸念される早川事業への対応、学会事務職員の待遇改善等、経費の増加が見込まれます。本年度及び過年度における公益目的事業会計の黒字をこれらの経費増に充当する事で、公益社団法人の要件である「中期的期間での収支の均衡」を満たすことを目指しています。2026 年度も引き続き、適正な予算策定と公益社団法人の趣旨に沿った柔軟な予算執行を行うことで、健全な財政の維持に努めてまいります。事業別決算書内訳は以下のとおりです。

事業別決算書内訳表

2025年4月1日から2026年3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計					
	一般事業					
	共通事業	欧文事業	月報事業	年会事業	その他の事業	小 計
経常収益計	20,751,240	76,886,738	2,255,335	12,496,800	1,741,190	114,131,303
経常費用計	15,845,390	57,037,060	15,071,869	15,205,749	7,266,559	110,426,627
当期経常増減額	4,905,850	19,849,678	△ 12,816,534	△ 2,708,949	△ 5,525,369	3,704,676

科 目	公益目的事業会計						公益目的 事業計
	一般事業						
	学術交流費 事業	国内研修 支援金事業	研究奨励賞 事業	早川基金 事業	林賞事業	小 計	
経常収益計	697,300	1,862	695,231	5,558,009	446,961	7,399,363	121,530,666
経常費用計	544,963	550	467,554	5,558,009	446,961	7,018,037	117,444,664
当期経常増減額	152,337	1,312	227,677	0	0	381,326	4,086,002

科 目	法人会計	内部取引等 消去	合 計
経常収益計	20,966,431		142,497,097
経常費用計	17,552,827		134,997,491
当期経常増減額	3,413,604		7,499,606

2025年度ご寄付者名

2025年度に日本天文学会へご寄付をいただいた
方々です。深く感謝申し上げます。
(敬称略／受付順)
高橋真理子，浅山信一郎

計 報

会員の澤田幸輝氏は2026年7月17日に逝去さ
れました。満28歳でした。ご冥福をお祈り申し
上げます。

天文月報 119巻 10月号 主な掲載予定記事

特集：公開天文台100周年（2）：日本の公開天文台をめぐる略史【澤田幸輝】

施設の事例から見る公開天文台のこれまでとこれから【公開天文台100周年調査・編纂ワーキンググループ】

研究奨励賞：多波長観測と太陽・恒星の比較による恒星スーパーフレアとコロナ質量放出の理解【行方宏介】

天球儀：〈2025年度日本天文学会天体発見功労賞〉新星探して三十余年【金津和義】

〈2025年日本天文学会天文功労賞〉掩蔽観測による小惑星の衛星の発見【真砂礼宏】

シリーズ・海外の研究室から：左側通行の国々を巡る研究者の旅【平井遼介】

シリーズ・天文学者たちの昭和：田原博人氏ロングインタビュー 第1回：少年時代～高校時代【高橋慶太郎】

編集委員：日下部展彦（編集長）、岡本文典、小山翔子、志達めぐみ、鈴木大介、高橋葵、田中壱、谷川衝、鳥海森、中島亜紗美、信川久実子、橋本拓也、福島肇、藤澤幸太郎、宮武広直、宮本祐介、守屋堯

令和8年8月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒162-0801 新宿区山吹町332-6 株式会社 国際文献社

定価733円（本体667円） 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359（事務所）／0422-31-5488（月報） Fax: 0422-31-5487

振込口座：郵便振替口座00160-1-13595 日本天文学会

三菱UFJ銀行 三鷹支店（普）4434400 公益社団法人 日本天文学会

日本天文学会のウェブサイト <https://www.asj.or.jp/> 月報編集e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

会費には天文月報購読料が含まれます。

©公益社団法人日本天文学会2026年（本誌掲載記事は無断転載を禁じます）